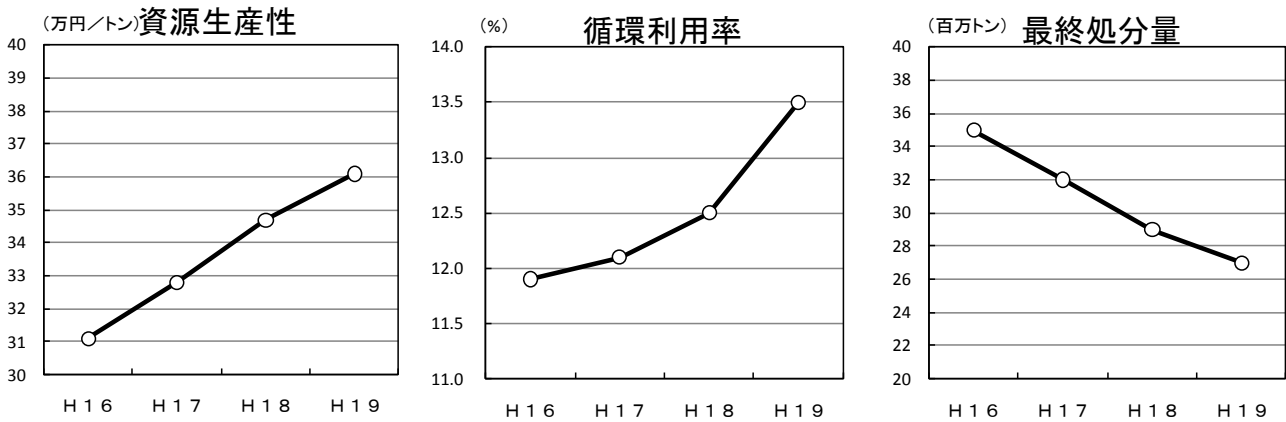


## ② 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

**概況** ○ 資源生産性、循環利用率及び最終処分量は、順調に推移。



(出所) 中央環境審議会第55回総合政策部会(8月4日)資料より作成

資源生産性:  $GDP / \text{天然資源投入量}$

循環利用率:  $\text{循環利用量} / (\text{循環利用量} + \text{天然資源投入量})$

最終処分量: 廃棄物の埋め立て量

**今後の政策に向けた主な提言** ( ) : 第2回点検後フォローアップ)

**重点調査事項①: 自然の物質循環と社会経済システムの物質循環の両方を視野に入れた適正な循環の確保**

- 低炭素社会形成、自然共生社会形成と統合的に展開する循環型社会形成に向けた取組を推進すべき。
- 地域活性化につながるような最適な規模の地域循環圏のための地域計画の策定による基盤の整備と、循環資源の性質別の地域循環圏の構築を進めるべき。

**重点調査事項②: 関係主体の連携や国際的な取組による施策の総合的かつ計画的な推進**

- 環境負荷の低いライフスタイルへ変革するため、学校や地域での環境教育を充実し、関係主体が相互に学びあえるような取組を進めるべき。
- アジア3R推進フォーラムの下で、各国に対し情報・知識・経験の共有を促すとともに、国際共同研究等における情報も活用し、3Rの情報拠点の整備に関する取組を推進すべき。

**重点調査事項③: 物質フロー等に関するデータの迅速かつ的確な把握、分析と公表**

- 指標の要因の分析については、更に統計の早期化・精緻化、物量ベースの詳細な情報の把握等を進め、研究分野の成果も活用しつつ分析を深めるべき。
- 中長期の循環型社会のグランドデザインを念頭に、今後の取るべき施策について検討を進めるべき。